



市民との意見交換会

総務常任委員会 × 多摩市明るい選挙推進委員会



令和7年(2025年)10月14日、多摩市明るい選挙推進委員会の方々と懇談し、日頃、ご苦労されていること、工夫されていることなどお話しいただき、交流しました。

お子さん連れの投票などが投票率アップに

最初に推進委員の方々に、日頃の活動でのご苦労など伺ったところ、「地域や生活に密着しているはずの市議会議員選挙に市民の関心が薄いと感じる」、「選挙体験を子どもの頃から持つのは大事」、「議員には、市民の興味・関心をとらえての情報発信をしてほしい」、「親が投票に子どもを連れていく体験があると投票率が上がる傾向がある」などの意見が寄せられました。

意見交換でのやりとり…推進委員の3分の2は女性

総務：推進委員になられたきっかけは、なんですか。

推進委員：前任者から頼まれることが多いです。元々は地域の婦人会から選ばれた方が多く、現在でも女性が多い状況で、

男性は3分の1です。

総務：投票所のシーンとした雰囲気が嫌だという市民もいるのではないのでしょうか。

推進委員：やさしくお声がけをしています、厳正な場との兼ね合いが難しいです。

総務：投票済証を求める市民は増えていますか。

推進委員：増えてきました。投票済証も、もう少しデザイン性のあるものになると聞いています。

最後に、推進委員の方々から研修の充実などについて、要望が出されました。



健康福祉常任委員会 × 東京都八南歯科医師会 多摩支部



診療が終わった夜の時間に集まっていただき、事前にお願ひした質問に丁寧に答えていただきました。「多摩市みんなの笑顔が広がる歯と口の健康を推進する条例」は、令和7年4月1日に施行されたばかり。市民へのPRと実践はこれからです。

「健康寿命は歯が決める」というお話からスタートした、東京都八南歯科医師会多摩支部の方々と6人との意見交換会は、2時間を超える懇談となりました。

年代ごとに違う口内トラブル、優秀な小中学生

まず、どのような世代に歯や口腔に関するトラブルが多いかについては、子ども時代「同じ児童生徒に集中してむし歯が多い」、青年層は「高校卒業後健診を受ける機会がなく、悪化しやすい」、女性は「出産期にトラブルが生じやすい」、そして高齢期は「嚥下(えんげ)の問題、歯周疾患が多い」等、現場の様子が紹介されました。

学校歯科医の立場からは、多摩市の小中学校では26校中25校が優良校表彰を受けるなど、子どもも保護者も歯の健康に積極的に取り組んでいること、図画コンクールにも多くの作

品が寄せられるなど、お褒めの言葉をいただきました。

感謝される障がい児歯科、条例をPRし役立てたい

健康センターで行われている障がいのある人たちへの歯科診療と予防活動は今年で37年目。市の応援も受けながら、歯科医師の方々が「最後の砦」という気概で取組み、多くの人に喜ばれ、期待されていることをあらためて実感しました。

一生を通しての歯の健康、高齢者の嚥下機能を高めることなど、健康寿命推進のために「歯と口の健康推進条例」を役立てたいという先生方の強い情熱が伝わってくる意見交換会でした。

